

## 国際交通安全学会 設立二十周年にあたって

国際交通安全学会会長

岡村總吾

20世紀後半のわが国の社会を支えてきたものの一つが自動車交通であり、その一方で多くの社会問題を生み出したのもまた、自動車交通です。

1974年（昭和49年）9月、複雑に絡み合った交通社会の現状や将来の在り方を自由に討議し、研究する新しい場として設立された当学会は、設立二十周年を迎えました。当学会は、「特定公益増進法人」として国の認可を受けた研究型財団であり、官公庁、学界、実業界、出版・ジャーナリスト、関連諸団体の方々の英知を結集し、交通問題に関する研究と諸活動を行ってきました。

国の数次にわたる「道路・交通に関する五カ年計画」への政策提言、時代の要請に応じた自主研究や受託研究の数々、欧米諸国をはじめ、東南アジア諸国、中国等との国際交流、またとりわけ1985年、三重県鈴鹿市に開講した東南アジア諸国の将来を担う人々を対象とした人材育成のための事業「IATSSフォーラム」等、20年にわたって私どもの活動は、皆様方のご理解とご協力のうえに成り立ってきたものと深く感謝しています。

ここで今、これまでの20年の足跡を振り返り、「ポスト二十周年」の役割について考えてみたいと思います。

交通問題は、交通事故、渋滞、環境等どれをとっても人間の社会生活や都市問題と密接に関わっており、片時なりともその研究と対策に手抜きは許されない状況にあります。また、こうした状況は日本固有のものではなく、世界各国の共通の問題であり、同じような課題を抱える人々と連携をはかり、知恵を交流し合うことの大切さをこの20年間の活動を通して実感してきました。

さらなる20年をめざして、海外においては、今まで培ってきた世界各国との連携のネットワークを更に強化するために、当学会がジョイントの役割を果たし得るよう一層の努力を、また、国内においては、いろいろの分野の研究者が協力して、率直に意見を交しながら、より質の高い研究活動と次世代を担う交通研究者育成のための支援を行っていききたいと考えています。

これまで同様、皆様方のご理解とご支援をお願い申し上げます。